

子どもの笑顔が輝き  
勢いのある学校

No. 29 (H30. 11. 29発行) 文責 校長 福田雅也

# 清流

## 鏡の法則

現実げんじつに起こる出来事できごとは、一つの「結果けつか」です。「結果けつか」には必ず「原因げんいん」があり、その原因げんいんは、あなたの心の中にあるのです。つまり、あなたの人生の現実げんじつは、あなたの心こころを映し出した鏡かがみだと思っおもてもらおうといいと思います。

これは、2006年頃ねんごろにベストセラーになった「鏡の法則かがみ ほうそく」という本ほんの一節いつせつです。当時とうじ、勤務きんむしていた学校がっこうの校長先生こうちょうせんせいに勧められて読んだことがある本ほんです。読んだときには、日頃自分が漠然ぼくぜんと思っていたことを、明確めいかくに文章化して教おしえてもらったような気がしたことを覚おぼえています。

今回こんかい、あるきっかけで改めて読み返してみました。

その内容ないようをこの紙面しめんで詳しく触れることはできませんが、実話じつわに基づいたエピソードもとを基もとに、上の枠内うわのような内容ないようと、「結果けつか」に問題もんだいがある場合ばい、解決かいけつのキーワードが「許ゆるし」であることが記されています。前回もそうでしたが、今回も読んでいる途中ちゆうちゆうに涙なみだがあふれてきました。そんな本ほんです。興味きょうみをお持ちになった方は、是非読まれてみてください。(宣伝しているわけではありません…)

学校での場面で考えてみると、次のようなことが当てはまるかもしれません。

学級がくきゅうになかなか指導しどうを受け入れてくれない、言わば教師にとって「困った子こまご」がいたとします。「何なん度指導しても言うことをきいてくれない。変わってくれない。どうしてこの子こは分かってくれないのだろう。」教師は、きっとそう考えてしまうでしょう。しかし、その考えは教師の心の中にある考えなので、実際は、その子自身が「困っている子こまご」なのではないでしょうか。「もっと愛あいしてほしい」「もっと自分じぶんを分かわってほしい、理解りかいしてほしい」そんな思いを心に持ちつつ、自分の心の中が理解できないまま、周りにとっては困った行動こうどうを繰り返している。

こんな場合、教師の心の中で「困った子こまご」を「困っている子こまご」と転換できたときに、その子の行動こうどうが理解でき、「鏡の法則かがみ ほうそく」に沿って言い方を変えれば、その子の行動こうどうを「許ゆるす」ことができ、解決の方向性が自ずと見えてくるのでしょう。

これは学校での場面ですが、きっと保護者の方々にも共感できる部分があるのではないのでしょうか。

今回この本を読み返して、こんなことを考えながら、妻が私に冷たいのは「私の心わたしのこころ」に原因があると言いい聞かせているところです。

また、私の好きな次の言葉も「鏡の法則かがみ ほうそく」とつながる部分があると感じました。

他人と過去は変えられない。自分と未来は変えられる。

【エリック・バーン(カナダ出身の精神科医)】